

学部学科	募集人員	志願者数	競争率	二段倍率	昨年倍率
<島根県立大学>					
総合政策					
総合政策 3教科型	前	60	481	8.0	8.3
総合政策 5教科型	前	60	158	2.6	4.9
総合政策	後	25	255	10.2	9.6
看護栄養					
看護		38	176	4.6	6.0
健康栄養		20	75	3.8	—
人間文化					
保育教育		20	68	3.4	—
地域文化	前	30	71	2.4	—
地域文化	後	10	45	4.5	—
短期大学部					
保育		20	99	5.0	2.1
総合文化		20	119	6.0	—

島大総合理工前期27倍
 4大2次
 出願締め切り
 2・3倍
 生物資源科学
 再編前の前年並み

国公立大2次試験の出願が31日までに締め切れ、山陰両県4大学は同日午後5時までの志願状況をまとめた。理系2学部を再編する島根大は、前期日程の総合理工(募集人員233人)が2・7倍、生物資源科学(同127人)が2・3倍で、ともに再編前の前年並みとなった。昨年新設の人間科学部の前期(同45人)は3・1倍で前年を下回った。(26面参照)

島根大の前期(同678人)には6学部合わせて1895人が出願し、前年確定倍率比0・4増減の2・8倍。後期(同195人)は1・8増の13・8倍となった。

総合理工、生物資源科学両学部の計10学科の前期倍率は1・3〜3・8倍。人間科学部の前期は前年より1・2倍低く、後期(同10人)は86・2倍だった前年から下げて17・0倍だった。前期は医学部医学科(同62人)の5・7倍、後期は生物資源科学部生命科学科(同10人)の32・6倍が最高となっている。

島根県立大で新設の人間文化学部は、保育教育学科(同20人)で3・4倍、地域文化学科の前期(同30人)で2・4倍、総合政策学部の前期3教科型(同60人)は前年並みの8・0倍となった。

鳥取大は前後期とも医学部医学科が最高で、前期(同65人)が7・9倍、後期(同20人)が17・7倍。鳥取環境大は前期A方式の経営学部(同50人)で4・3増の7・6倍だった。各大学は8日までに確定値をまとめる。(曾田元気)

人間文化学部 出願倍率458倍

島根県立大18年度入試
（松江市浜乃木7丁目）
は5日、2018年度に四
年制化して新設する人間文
化学部の一般入試の出願状
況を発表した。前後期合
わせた定員60人に対して出願
者は275人で、倍率は4
・58倍。学科別で前期のみ
の保育教育が定員20人に98
人が出願し、倍率は4・90
倍となった。

地域文化の前期（定員30人）の出願は101人で、倍率は3・37倍。後期（同10人）は76人で、倍率は7・60倍だった。

前期試験は25、26の両日に実施し、合格発表は3月5日。後期試験は3月12、13の両日に実施し、合格発表は同20日にある。

推薦を含めた人間文化学部の全定員は110人。
（勝部浩文）

島根県立大 学長 短大存続「正しかった」 ニーズある倍率と分析



島根県立大（本部・浜田市野原町）の清原正義理事
長兼学長は13日、2018
年度に四年制化する松江キ
ャンパス（松江市浜乃木7
丁目）で短大部として存続
する保育、総合文化の2学
科の志願倍率がそれぞれ、
前年度を上回ったことを受
け、「ニーズがあると思わ
せる倍率」と分析し、存続
の判断に関して「正し
かった」との見解を定例会見で
示した。

設置主体の県は、松江キ
ャンパスの3学科全てを四
年制化する方針だったが、
県議会から短大需要がある
との指摘を受け、保育、総
合文化の2学科を、定員を
減らした上で残した経緯が
あり、四年制、短大部とも
に志願者が集まるかが焦点
になっていた。

短大部で定員40人の保育
は、一般入試枠の定員20人
（前年度28人）に対し、出
願者が99人（同80人）で、
倍率は4・95倍（同2・14
倍）。総合文化は定員20人
（前年度は1、II両日程計
70人）に対し、出願者が1
19人（同289人）で、
倍率は5・95倍（同4・13
倍）となった。

結果を受け、17年春に就
任した清原学長は、両学科
の存続を決めた方針転換が
適切だったと評価。学校現
一方、四年制の人間文化
学部では、定員40人の保育
教育学科で一般入試枠の定
員20人に対して98人が志願
し、志願倍率は4・9倍、

保育、総合文化の2学科を短
大部として存続させた判断に
ついて見解を示す島根県立大
の清原正義理事長兼学長
浜田市野原町、同大浜田キ
ャンパス

地域文化学科は前期30人に
101人、後期10人に76人
が志願し、志願倍率はそれ
ぞれ3・37倍、7・6倍と
なったことについて「予想
より（倍率は）多少低いが、
危機的状況とも言えず微妙
なところ。今後、分析した
い」と話した。
（陶山貴史）

学部学科		募集人員	志願者数	競争率	二段倍率	昨年倍率
<島根県立大学>						
総合政策		前	60	600	10.0	8.3
総合政策	3教科型	前	60	191	3.2	4.9
総合政策	5教科型	後	25	288	11.5	9.6
総合政策 看護栄養			38	215	5.7	6.0
看護			20	99	5.0	—
健康栄養			20	98	4.9	—
人間文化		前	30	101	3.4	—
保育教育		後	10	76	7.6	—
地域文化						
地域文化						
短期大学部						
保育			20	99	5.0	2.1
総合文化			20	119	6.0	—

2次試験 解答例 両県4大学非公表

大阪大や京都大で入試の出題ミスが発覚し、正解や解答例の開示に関心が集まる中、山陰両県の4大学はいずれも公表しない方針を23日までに明らかにした。記述式で画一的な模範解答が示しにくいのが主な理由。国公立大の2次試験は25日に始まる。

(26面参照)

島根大と島根県立大、鳥取環境大の担当者は非公表の理由について「記述式は正解が一つではなく、答え

を導く過程を評価する出題意図もある」などと説明した。鳥取大は学内会議での決定事項としている。島根大の江川浩文教育・入試企画課長は「仮に方針を見直す場合は、国の動向を踏まえながらなるだろう」と話した。

入試ミスを巡っては、昨年の大阪大や京都大で出題ミスがあったことが相次いで発覚し、両大学とも追加合格者を出す事態に発展した。これを受け、文部科学省は開示の在り方に関するルール作りに着手する考えを示している。

(曾田元気)

県立大短大部再編 2 学科

実質倍率 2.94 倍

前年度のほぼ倍

島根県立大短期大学部

(松江市浜乃木 7 丁目) は

23 日、2018 年度に再編する同学部の保育、総合文化 2 学科の一般入試合格者を発表した。受験者と合格者を比べた実質倍率は 2.94 倍で、四年制学部新設に

よる定員減の中で、前年度のほぼ倍となった。

2 学科とも募集定員は 20 人。保育学科は受験者 84 人に対して合格者 31 人、総合文化学科は 101 人が受験して合格者は 32 人だった。実質倍率は保育が前年度比 1.41 倍増の 2.71 倍、総合文化が 1.54 倍増の 3.16 倍だった。

(鹿島波子)